

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	辻田 耕心	学校名	習志野市立袖ヶ浦西小学校
実施学年	知的障害特別支援学級(2・3・6年)	教 科	生活単元学習
単元名	習志野市を知ろう。		

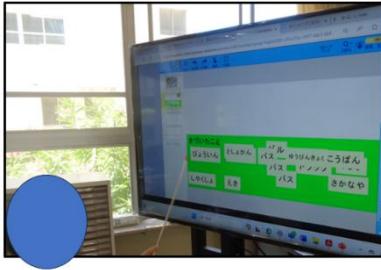
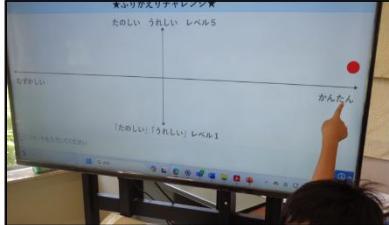
«学びを深めたいポイント»

- ・本時では、自分の気付いたことを自分なりの方法で友達に対して表現する時間とするために、より児童が自分の思ったことや分かったことを発表したいと思える状況作りが重要である。
- ・異学年の児童が在籍する中で、集中して活動に取り組めるようにするために、実態に合わせた活動を設定することも大きなポイントである。
- ・様々な学年に児童が在籍する中で、それぞれの児童が身近に感じられる題材を設定することも重要な視点であると考える。
- ・児童自身が授業を振り返る時間を設定し、より視覚的に、友達と考えを共有できる場になるようにする。
- ・児童が生き生きと活動に取り組める時間を目指したい。

«SKYMENU 活用のポイント»

- ・集中トレーニングに取り組む場面では、「発表ノート」を活用し、児童自身がタブレットに表示された資料の中から言葉探しをする時間を設定した。児童の見付けられたという成功体験を積み上げる機会とできる。
- ・イラストを見て、分かったことを見付け発表する場面では、「発表ノート」を活用し児童のタブレットに表示した資料の操作を行いながら、イラストから自身が見付けたものをタブレットを操作し移動させた。自分が見付けたものを可視化することができ、友達と共に理解を図ることができる。
- ・振り返りの場面では、「ポジショニング」を活用し、児童の授業の振り返りの一助とする。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	<p>1 集中トレーニングに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中して取り組める活動を取り入れ、授業への意欲付けとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「発表ノート」を活用し、教師が資料を配付し、児童が書き込み等を行う。 ・「発表ノート」で自分の探したものを見つけて、ペン等で○を解ける等自分で取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「発表ノート」の題材を背景化しておき、児童が操作の際に難しさを感じないように工夫する。 ・児童が操作に困っていないか適宜確認を行う。
展開	<p>2 めあての確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の大きな目標を確認し、見通しをもって取り組めるようにする。 <p>3 習志野市クイズにチャレンジする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習志野市には、袖ヶ浦など小さな町が21個あることを伝え、覚えている町を伝えられるようにする。 <p>4 イラストを見て、分かったことを見付け、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イラストを提示し、どのような建物が隠れているか、発表ノートを活用し、操作しながら学習を行う。  	<ul style="list-style-type: none"> ・23の場面については、SKYMENUは活用しなかった。 ・「発表ノート」を活用し、イラストから見付けだしたものを操作し、指定された場所に移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・操作の他に、ペンで書き込むなど児童実態に合わせて活動に取り組ませる機会とする。 ・児童の実態に合った表記の仕方やイラストを活用するなどの工夫を施す必要がある。 ・他の児童との共有を図るために、大型提示装置に映しだし、情報共有を行う。
まとめ	<p>5 本時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返ったことを友達に表現する場面とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ポジショニング」を活用し、自分で振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身での振り返りの後に、発表の場面を設定することで、友達とも共有を図れるようにする。

《実践を振り返って》

知的障害特別支援学級の児童においては、発表ノートを活用することで、自分の気付いたことを自分なりに表現できる一助となることが分かった。また、提示したものにペンで書き込むなど、児童それぞれに工夫して自分が気付いたことを表現する姿を生み出すことにもつながった。その反面、児童の実態が様々であることから、表記の仕方やイラストを活用するなどのより工夫が必要であったと感じる。発表ノート作成の際に、児童の視点に立ち、今後も励んでいく必要がある。

また、ポジショニングの活用を行ったことで、それぞれの児童が授業の振り返りとして、自身の現在の気持ちを表現することにつながった。普段以上に振り返りの際に、理由を意識している児童が多く、自分の気持ちを整理して発表する上でも、効果的であることが分かった。

今後は、より工夫を図り、学びの場に合った振り返りの仕方を検討し、児童に合った活躍の場を考えていきたい。